

## 第21期第5回理事会議事録

日時 昭和57年5月26日(水) 17.40~19.20  
 場所 日本教育会館 808号室  
 出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 内田, 河村, 杉村,  
 竹内, 二宮, 松本, 増田, 村山(以上常任理事)  
 伊藤(宏), 伊藤(昭), 菊地, 坂上, 武田, 中  
 島, 山元, (以上理事)

## 議 題

## 1. 予算関係

荒井理事から別紙資料にもとづき次のとおり説明が行われた。

## (1) 昭和56年度会計決算報告

収入の部

ア. 会費収入は会費値上げと会員増加のためにより予算額より約180万円の増収となった。

イ. 「気象研究ノート」は4冊順調に発行されており、頁数の関係でこの年度は予算額より約170万円の減少となった。

ウ. 雑収入は、預金利子、別刷代、投稿料、広告料等により増収となった。

支出の部

ア. 租税公課では、学会活動の活発化による収益増に対し約43万円の課税増となった(56年度の税金は、1年遅れの55年度の収入に対するものである)。

イ. 事業費の通信運搬費は「気象集誌」60巻1号(記念号)および「天気」29巻3号の発送が4月にずれ込んだため等により支出減となった。

ウ. 印刷製本費は、「気象集誌」の記念号を含めての増頁に対する印刷費が約530万円の支出増となった。

## (2) 昭和57年度予算書(案)

前年と同じで特に大きな違いはない。

ア. 管理費の印刷製本費の23万円増は、第22期役員改選に伴うものである。

イ. 支部交付金の63.8万円の増は、1支部当たり基本金7万円を10万円に、会員1人当たり500円を700円に改定したためである。

ウ. 事業費の臨時雇賃金は、「学術用語集」の編集がなくなったため30万円の減とした。

エ. 会議費の約86万円の増は、記念事業として国際会議、その他に要する経費である。

オ. 旅費交通費は、100周年記念に出席された外国人の地方講演等に要する経費増である。以上原案について承認された。

## 2. 事業計画

別紙昭和57年度事業計画(案)が小平理事から説明され一部修正のうえ原案どおり承認された。

## 3. 長期計画

武田理事から今期の長期計画委員会で検討された内容について報告があったが、これらについては、まとも次第「天気」に掲載される予定である。

## 4. 100周年記念事業

記念式典に中国気象学会を代表して中国科学院大気物理研究所長の葉篤正氏の記念講演会について岸保理事長から次のとおり報告があった。

関西支部(米国地球流体力学研究所の真鍋博士と同行)

東京大学

気象研究所

東北支部

## 5. 熱帯気象学に関する地域科学会議

松本理事から次のとおり報告があった。

## (1) 開催日、会場 10月18~22日の日程について

初日は、気象研究所、翌日から研究交流センターで行う。

## (2) 参加者への通信

3月末日に abstract をメ切った。

4月27日 Int. Note No. 1 を送った。

7月15日 extended abstract をメ切る。

## (3) 参加の状況

## (4) 予定プログラム

## (5) 運営の予算

学会の予算110万円ではまた30万円位不足するので寄付をお願いする。

## 6. 中部支部100周年記念講演会

中部支部から提案の件了承。また九州支部からも同様の申し出があり、各5万円を補助することが承認された。

## 7. その他

岸保理事長からアメリカ気象学会の前理事長  
Fleagle 教授からの申し出で記念式典の模様を  
“Bulletin”に掲載したいとのことで、3頁にま

とめて欲しいとの要望があり「天気」編集委員会  
で担当することになった。

承認事項 蓬田洋一ほか35名の新入会員を承認。



内嶋善兵衛 編  
農林・水産と気象  
現代の気象テクノロジー 4

朝倉書店、A5判、2,900円

このたび「現代の気象テクノロジー」シリーズ（朝倉書店）の4巻として「農林・水産と気象」が発刊された。この書は、編者（内嶋善兵衛）氏をはじめとして、岩切敏・大塚一志氏らの力作として評価される。

農業・林業のみならず水産業における気象の利用は、遠く明治の頃からもっとも重要な国策の1つとして研究されてきたので、無数の論文があるが、この書は、最近における新しい研究が主体となっていて、新しい技術がまとめられている。従って教科書としても適当と思われる。農業と気象について、論文が多いにもかかわらず、大後美保博士「農業気象学通論」など2～3の書を除けば、一冊にまとまった書が少ない。そのような観点からも、この書に盛られた内容は、内嶋・岩切 両氏が農業

試験場において、自ら研究・実験した内容が豊富に盛られているし、また大塚氏は海洋気象台、水産大学などで研究された内容を示している、いずれも暫新なものばかりである。その内容は基本的な要素としての、太陽エネルギー・熱などの基礎的な記述にはじまり、最近の課題としての気候変動・自然エネルギー（風力エネルギー・地熱エネルギーなど）に及び、国家的課題の新しい問題を解析している。いずれも資料が新しく、このような最近の研究をコンパクトにしたのは、他に得られない。

大塚氏は水産業について、海難を重点とした従来の水産気象の書とは趣きを異にして、養殖と気象、気候変動と水産資源という基本的問題を要領良く記述している、いずれも新しい資料を用いている。

ここに盛られた内容が机上の識論でなく、三氏が自ら実験し研究し得た新しい知識を披瀝したものとして、ここに農林・水産に気象を利用せんとする人に強く推薦して止まない。

（尾崎康一）